

# 山の力で地域を支える



インフラの町医者と複業化を目指す経営者が集まる建設トッププラノナー俱乐部（米田雅子代表幹事）は、5月30日と31日の両日に福島県の視察研修会を開催し、山間地で地域を支える仕組みづくりに挑む地域建設業の取り組みや、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故で大きな被害を受けた沿岸地域での復旧・復興作業の模様を視察した。

米田代表幹事をはじめ約40人が研修に参加。初日は奥会津地域・三島町の佐久間建設工業（佐久間源一郎社長）を訪問した。森林面積が86%を占め、過疎・高  
り、「付加価値の高い「秋いち「栽培」、温泉施設の多角化に挑んでいる。研修では、会津地方の建設会社や設

グデータ解析を専門とする  
誘致企業「株式会社toco」  
の高村佳男社長は「来  
訪したビジネスパートナー  
の10割が満足して帰る」と  
説明した。

「え、ほい」と求めた。  
富岡町では、帰還困難  
域との境界バリケードや

どの取り組みを紹介した。引き続き、空き家となつていていた築150年の古民家をIT企業の開発拠点に作り変えた「清匠庵（せいしやうあん）」も見学。施設は、古民家の風情を残しつつ内・外装を新しい木材に更新。台所やトイレは最新の設備を取り入れた。ビック

「常磐道を応援する女性会」の取り組みから、霞ヶ浦以前における同法人の活動の経緯を説明した上で、事故の影響の大きさを主張。『世界一素晴らしい地域にしたい』との思いで、『ふくしま浜街プロジェクト』を紹介。参加者に「避難先

区域の境界にまたがる富岡町、いわき市沿岸部の復旧現場などを視察した。山木・加地和特定Vの高崎満宏現場代理人が工事概要を説明した。質問応答では専門工や資材の調達状況、工期等について尋ねられ、P.C.造の採用がされ、内装のプレハブ化に講演したり、合計192戸が約15ヶ月工期内に完成する見通しを報告。中央台高久地区の整備促進を急仮設住宅群、小名浜港を視察した。

社長)を訪問した。森林面積が86%を占め、過疎・高齢化に悩む山間地域に拠点を置く同社は、地域維持型JVのモデルとして知られる宮下地区建設業協同組合の中心的存在であるほか、森林資源などの「山の力」で地域を支える仕組みづくり研修では、会津地方の林に関わる建設会社や設事務所、製材所などと連した「IORI(いおり俱楽部)」の活動を報告。

森計携の10割が満足して帰る」と説明した。

2日目は浜通りに移動。櫛葉町の「道の駅なは」で、NPO法人ハッピーロードネットの西本由美子理事長から避難生活を送る双葉郡の現状について講演を聞いたほか、帰還困難区域を視察し、災害公営住宅費

富岡町では、帰還困難区域との境界バリケードや店街、津波被害で壊滅しきJR富岡駅を視察。いわき市では、全壊したもののいち早く再建した「道の駅とつづら港」や新舞子海岸、豊間中学校、塩屋崎灯台等を視察し、災害公営住宅費

どの取り組みを紹介した。引き続き、空き家となつていていた築150年の古民家をIT企業の開発拠点に作り変えた「清丘庵（せいしょあん）」も見学。施設は、古民家の風情を残しつつ内・外装を新しい木材に更新。台所やトイレは最新の設備を取り入れた。ビッグデータ解析を専門とする誘致企業「株式会社t.o.r」の高枝佳男社長は「来て感じて、正しい情報をえてほしい」と求めた。会の取り組みから、震災以前における同法人の活動の経緯を説明した上で、原発事故の影響の大きさを強調。「世界一素晴らしい地域にしたい」との思いで進めていく「ふくしま浜街道プロジェクト」を紹介した。参加者に「避難先を用意しておいて、戻って頑張っている人をいる。自分の目で見て、聞け」と語った。この言葉が、この会議の大きな特徴である。この言葉が、この会議の大きな特徴である。